

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	163人
② 数学	163人
③ 英語	163人

5 留意事項

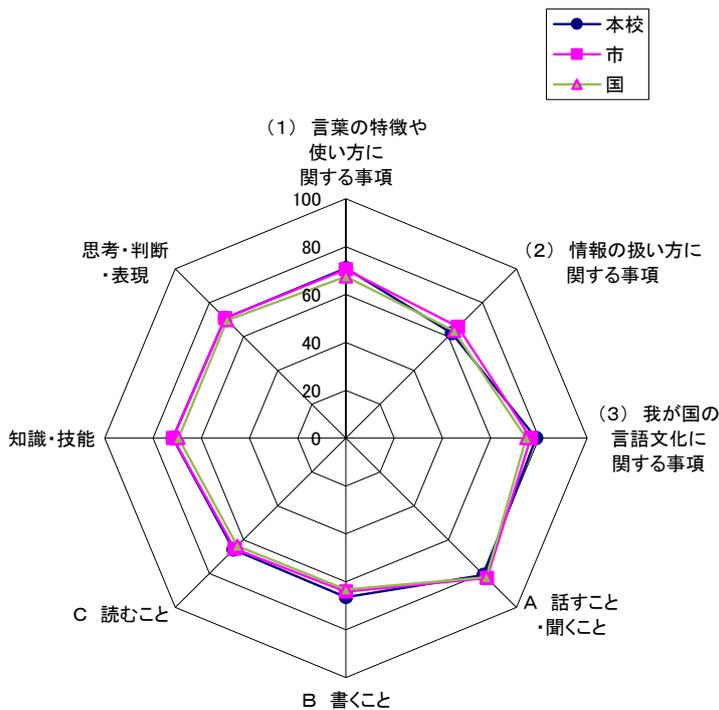
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	62.0	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.8	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	80.7	82.6	82.2
	B 書くこと	66.4	64.1	63.2
	C 読むこと	65.9	65.3	63.7
観点	知識・技能	71.8	71.7	69.4
	思考・判断・表現	70.9	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

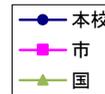
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 市や全国と比較して、平均正答率は若干高めであるが7割程度にとどまっている。 ○心情を表す語句について文脈に即して適切にとらえる力は概ね身に付いている。 ●文脈に即して正しい漢字を書く力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての学年で購入している「漢字学習ノート」を活用し、漢字の練習に取り組みさせる。また定期的なテストを実施することにより、生徒にも具体的な目標を持たせ、漢字の読み書きの力の向上につなげる。
(2) 情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 市や全国と比較して、平均正答率は若干下回っている。 ●情報と情報がどのように結びついているかを理解する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、朝の活動で週に1度実施している「読み方レスキュー」を活用し、正しく読む力を身に付けさせていく。「読み方レスキュー」に取り組むことによって、情報同士の関係を読み解いたり論理的に推論したりする力の向上を目指す。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 市や全国と比較して、平均正答率は2～4ポイント程度高い。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めたり、古語を現代語に訳したりする力はおおむね身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典を朗読したり暗唱したりする学習に力を入れる。それらの学習によって古典を身近に感じ、古文特有の言葉遣いに慣れさせることができると考えられる。
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は8割程度であるが、市や全国と比較すると2ポイント程度低い。 ○目的や場面に応じて質問する内容を検討したり、相手から聞き取ったことをもとに自分の考えをまとめたりする力はおおむね身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの授業では、相手や目的に応じた話の内容や構成の工夫をさせる。また、相手に分かりやすく伝わる表現を考えさせる。 国語の授業だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間、学校行事などで生徒の「話す・聞く」力の向上を図る。
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 市や全国と比較して平均正答率は上回っているが、7割に届いていない。 ●読み手の立場に立って叙述の仕方などを考えながら文章を整える力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」以外の単元でも豊かな語彙力を身に付けさせ、場面に即した適切な言葉の選択ができるようにする。 国語の授業だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間、学校行事などで生徒の「書く」力の向上を図る。
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 市や全国と比較して、平均正答率は若干上回っているものの、7割に届いていない。 ●特に文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章においては段落同士の関係を考えさせたり接続語の果たす役割に注目させたりすることで、文章の構成や展開、読者に与える効果について考えさせる。 現在、朝の活動で週に1度実施している「読み方レスキュー」を活用し、正しく読む力を身に付けさせていく。

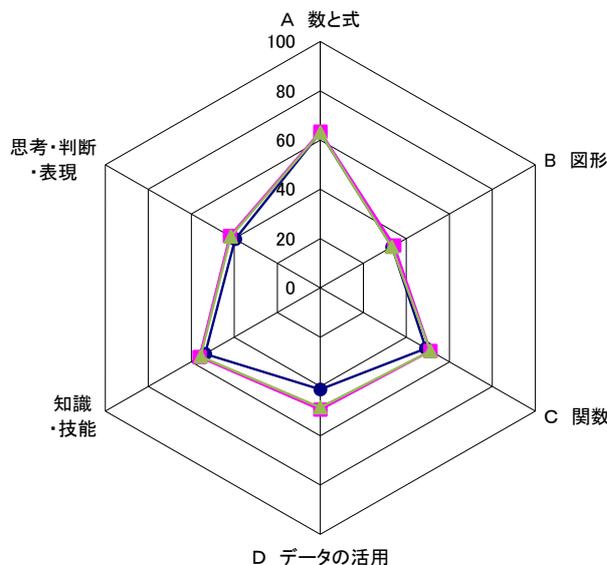
宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	63.0	63.4	63.0
	B 図形	33.3	34.3	33.2
	C 関数	49.1	51.2	51.2
	D データの活用	41.2	49.4	48.5
観点	知識・技能	53.6	56.2	55.7
	思考・判断・表現	39.6	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

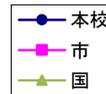
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は市の平均を下回っている。</p> <p>○「はじめの数に掛ける数が2, たす数が6ならば, 計算結果はいつでも3の倍数になる」の説明を完成する問題がよくできている。式を(3×整数)の形に変形することが身に付いている生徒が多いと考えられる。</p> <p>●はじめの数に掛ける数がいくつ, たす数がいくつならば, 計算結果はいつでも4の倍数になる数について, 予想した事柄を表現するという問題に課題が見られる。</p>	<p>・今後も, 計算問題についてはプリントを配布するなどして, なるべく多くの問題を解いて, 慣れさせるようにする。</p> <p>・左記に書いた問題では, 能動的に式の変形まではできるが, その意味を読み取ったり, 事柄が成り立つ理由を説明するまでには到達していない生徒が多いと考えられる。授業ではただ解くという技能面だけではなく, なぜそうなるか, そうなるために何が必要になってくるかという設問を増やすなどして, より深く考えられるようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は市の平均を下回っている。</p> <p>○空間における平面が1つに決まる場合について, 正しく述べたものを選ぶ問題がよくできている。</p> <p>●三角形の合同を用いて平行であることを証明する問題では, 3割程度しか正解しておらず, 県の平均よりも低い。</p>	<p>・左記に書いた三角形の合同証明のように論理的に説明するような問題では, まず合同条件を確定させてから, 記述するように指導している。しかしそれ以前に言葉では説明できる生徒も多いが, 記述自体が苦手な生徒が多い。基本問題だけでなく応用のきいた問題も多く解き, 個別に指導していきたい。</p>
C 関数	<p>平均正答率は市の平均を下回っている。</p> <p>○反比例の性質を選ぶ問題がよくできており, 県の平均を上回っている。</p> <p>●与えられた表やグラフから, 必要な情報を適切に読み取る問題に課題が見られる。</p>	<p>・式やグラフから変化の割合や座標の中身の情報を確実に得られるように, ただ計算するのではなくグラフや式と内容を照らし合わせながら指導していきたい。</p> <p>・表, グラフ, 式を関連付けて考えることができるようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は市の平均を下回っている。</p> <p>○2つの箱ひげ図の箱に着目した説明ができている。</p> <p>●ある階級までの累積度数を求める問題が6割の生徒が不正解である。</p> <p>●表や箱ひげ図から情報を読み取り, 四分位範囲を求める問題に課題が見られる。</p>	<p>・箱ひげ図を確実に書けるようにしつつ, 箱ひげ図の特徴を理解したり, 読み取り, 自分の考えを説明できるようにする。</p> <p>・累積度数や四分位範囲など重要語句の意味や計算を, 多くの問題を解いて確実にできるよう指導していきたい。</p>

宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

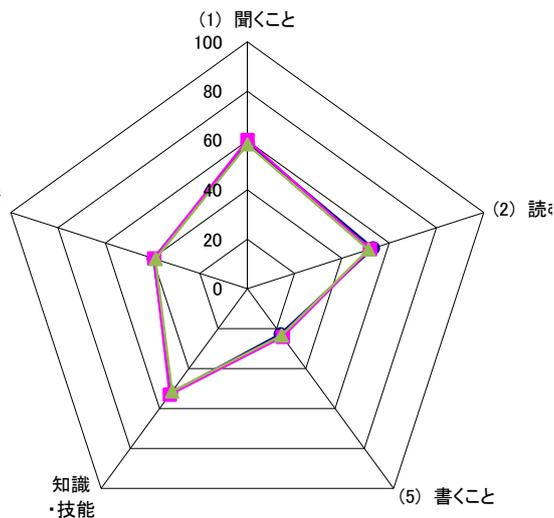
★本年度の国、市と本校の状況

【英語】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	59.1	60.2	58.4
	(2) 読むこと	53.2	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	22.7	24.2	23.4
観点	知識・技能	52.3	53.1	51.5
	思考・判断・表現	39.6	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

思考・判断・表現



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	○大問番号1(1)と2の問題で県と国の平均値を上回っている。いずれの問題も問題文を聞きながら、絵を見て答えを選ぶという種類の問題であり、視覚での理解が優位にあるということが分かる。 ●正答率がもっとも低かった問題は、大問1(2)と大問3で、一定の長さの対話文を聞いた後に、資料を見て答える問題と道案内を題材にした内容だった。道案内で使われる基本的な表現が定着していないことが分かる。	・リスニング力を高める必要もあるため、一定の長さの英文を聞く時間をさらに取り入れたたり、JET単独の授業でも英語を使用する場面をより増やしたり、ALTの授業でも教師同士の発話量を増やしたりして、英語を聞く時間をさらに増やす。 ・聞いている間に、大切な情報を落とさずにメモを早くとする指導も継続して行う。 ・教科書や補助教材以外にも、一定の長さのリスニングの資料を速さを落とさずに聞き取る練習を取り入れ、内容の聞きとりを繰り返し行う。
(2) 読むこと	○大問番号5の問題で県と国の平均値を上回っている。英文を読み、内容を表すグラフや絵をもとに解答するという問題であり、聞くことと同様、視覚での理解が読解という点でも共通して優位にあることが分かる。 ●大問番号7(1)の問題でもっとも正答率が低く、英文の空欄の中に当てはまる適切な語句を選択するという内容の問題であり、空欄の前後の内容を正しく把握し、適語を選択することが困難であったと考えられる。	・ある一定の長さの英文を限られた時間で読み、大意をつかみ概要をまとめる学習をさらに多く取り入れる。 ・教科書や補助教材以外にも、長文読解のための資料を取り入れ、内容を把握する練習を継続して行う。 ・限られた時間で情報を把握するためのテクニックを紹介し、時間内で長文を読ませる練習をさらに確保する。
(3) 書くこと	○大問番号9の問題でもっとも正答率が高く、対話の中で質問された内容に適切に応えるという内容の問題であった。対話の前後の内容から返答を想像したり、即興で答えるということが定着してきたということが分かる。 ●大問番号9(2)の問題でもっとも正答率が低く、メールの添削された下書きをアドバイスに沿って、正しい表現で書き返すという内容の問題であった。依頼する時の表現が定着していないことがうかがえる。	・既習の学習内容を適切に使いこなすことができるように、単元ごとに既習の文法事項を使用した英作文を書く練習を継続して取り入れる。 ・語彙力をつけさせるために、単元ごとに単語テストを実施し、単語が正確に書けるようにする。 ・質問されたことに対して、即興で正しく答える練習を日常の授業でも取り入れる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(4)「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、87.1%が肯定的な回答をしており、県平均(82.5%)と全国平均(80.0%)を大きく上回っている。また、(5)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対しても、「当てはまる」と回答した生徒が63.2%で、県平均(48.5%)と全国平均(40.0%)を大きく上回っている。生徒の自己肯定感が高めるために、帰りの会で「今日のキラリさん」(一日で良い行いをした人)の発表をしたり、良い行いをしている人や学級を学年朝会で表彰したりしている。生徒指導の中でも理不尽に怒るのではなく、良さを認め、寄り添う指導を3年間続けてきた。また、学年の主任、担任が3年間替わらずに指導してきているのも影響していると考えられる。継続的に成長を見守ってきた成果だと感じる。

○(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」と質問に対して、80.3%が肯定的な回答をしており、県平均(69.2%)と全国平均(66.4%)を大きく上回っている。さらに、(8)「人が困っているときは、進んで助けていきますか」の質問に対して、当てはまると回答した生徒が54.0%で、県平均(46.1%)と全国平均(38.4%)を大きく上回っている。1年生のときから「優しさを発信していこう」をスローガンに掲げ、具体的な行動目標に「目配り・気配り・心配りをしよう。」を実践してきた。気配りとは気配を感じることで、つまり、異変に気付くこと。心配りとは心配すること。つまり、異変に気づいたら、「大丈夫？」と声をかけることと示し、実践し、評価してきた。大人(教師)がまず率先して実践していくことを3年間取り組んできたため、生徒に浸透していき、成果として表れていると感じる。

○(43)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の肯定的回答が87.8%で、県平均(79.4%)、全国平均(72.6%)を大きく上回っている。総合的な学習の時間の調べ学習は1年生の時から力を入れて取り組んできた。新聞を作らせたり、タブレットでPPを作成し、学級で発表したり、スクラップブックに写真や資料を切り貼りしたりと、充実したまとめ学習を行ってきた。よい発表をした生徒を保護者会で発表したり、学年朝会で表彰したりしてきた。その成果が出ていると考える。その他の探究活動に関する質問にも肯定的な回答が多く、繋がりが見られる。

●(18)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)への否定的な回答(1時間より少ない。もしくは、全くしない。)が37.4%で、県平均(24.7%)を大きく上回り、全国平均(34.2%)も上回った。特に、「全くしない」という回答は17.2%で、県平均(7.5%)と比べると顕著な結果が見られた。昨年度から、働きから改革の一つとして、「自主学习ノートのチェック」を本校では廃止した。その影響が出てしまったと考えられる。

%

宇都宮市立鬼怒中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「読解力の向上」を目指し、文章を読み取る力、書く力、論理的に考える力の育成。	・読解力を向上するための補助教材を購入し朝の活動を利用して、週に1回実施している。その際に、時事について触れたり、漢字の読みや意味について確認したりして、実感的に語彙を増やし語感を豊かにするよう指導している。 ・各教科において「読解力の向上」を意識した授業の取組や、研究授業を推進している。	・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問に対する回答は概ね全国平均を上回っている。一定の読書量を確保することは語彙獲得のために効果的であることから、今後も読書活動を推進していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・家庭学習の習慣の定着に課題がある。	・各教科において与える課題の工夫。	・従来の宿題観を見つめ直し、自主的に意欲的に取り組むことができる課題や、探究的な課題などを適切な期間と時期に与える。